

平成22年度自己評価表

様式2

鳥取県立鳥取工業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	技術を研ぎ、身体を鍛え、心を磨くことをとおして、優れた知性や創造性を身に付けたたくましい力と、感動したり他者を思いやるあたたかな心を兼ね備えた健全で個性豊かな人材の育成をめざす。	今年度の 重点目標	1. 確かな学力の育成 2. 豊かな人間性の育成 3. キャリア教育の充実と生徒の進路実現 4. 地域や産業界とのパートナーシップの確立
-------------------	---	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 ()月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 確かな学力の育成	① 授業改善と学力の定着	①各科・各教科の授業公開は年1回は行われている。 ②授業評価アンケートを分析し、工夫したが、生徒意欲の喚起までには至らなかった。	○教材・指導法の工夫と学習内容の精選により、わかりやすい授業に努め、生徒の学力を向上させる。 ○積極的な授業公開により、授業改善を行う。	○授業評価アンケートの分析をとおして授業の改善に努め、生徒の意欲喚起につなげる。 ○各科・各教科での授業を公開し、事後の反省会等を持ち改善につなげる。			
	② 主体的な学習態度と実践力の育成	①自宅学習時間は横ばいである。 ②図書館の貸出冊数が漸減している。 ③部活動での中国大会・全国大会への出場者数が減少している。	○自宅学習時間が理数工学科では2時間、工業学科では1時間以上とする。30分未満の生徒の割合を3割未満とする。 ○読書への興味・関心を喚起し、読書が習慣化するように、朝の読書を実施する。 ○部活動での中国大会・全国大会への出場者数の増加を目指す。	○生徒・保護者との面談を通して、進路目標の早期確立を図り、主体的な学習態度を育む。 ○自宅学習時間調査を分析し、学習の習慣化につなげる。 ○朝の読書を実施し、読書の習慣化を図る。 ○生徒が部活動に主体的に取り組めるように、教職員の支援体制を整える。 ○生徒の生活状況を把握し、関係職員と連携して相談活動にあたる。			
2. 豊かな人間性の育成	① 互いを尊重する態度と社会性の涵養	①昨年実施したQ-U調査では、生徒理解は深まったが、個々の指導に十分生かし切れていない。 ②校外での人権教育研修参加率が60%にとどまった。 ③公開人権LHRでは、事前研修によりその充実を図ることができたが、PTAとのより緊密な連携が必要である。	○望ましい集団づくりを心がけるとともに、生徒が集団の中でいきいきと活動できるようにする。 ○人権教育を充実させるため、地域・関係機関等と連携を図る。 ○校外での研修により教職員の実践力を高める。	○Q-Uに替えてハイパーQ-Uを実施し、分析をとおして、クラス全体や生徒の状況を把握し、指導・支援にいかす。 ○性教育を中心としながら、日々のあらゆる教育活動をとおして「他者を思いやる力」を育てる。 ○生活の中にある問題を適宜捉え、自らの意識のありようを振り返る機会を持つようにする。 ○校外での「人権教育一人一研修」の取組を実践する。			
	② 健全な心身と社会貢献精神の育成	①ボランティアへの参加者数が減少した。 ②基本的な生活習慣がほぼ改善してきており、遅刻者や早退者は減少傾向にある。 ③挨拶、礼儀作法、身だしなみ等に課題のある生徒がいる。 ④TEASⅡ（鳥取県版環境管理システムⅡ種）に関しては、目標としていた数値が全て達成できた。	○職員一人ひとりが、ボランティア活動への認識を深め、各種ボランティア活動への生徒の積極的な参加を促す。 ○校内環境の整備に留意し、挨拶ができる生徒、身の回りの整理整頓ができる生徒を育てる。 ○本年度のTEASⅡの目標を生徒・職員に周知徹底し、環境に関する意識をよりいっそう高め、目標の達成を目指す。	○地域の美化活動への参加を呼びかける。 ○テクノボランティア等、ボランティア内容の検討等を行い、生徒のボランティア意識を高める。 ○5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）・あさひ（挨拶・作法・人の話をしっかり聞く）の指導を徹底する。 ○TEASⅡ講演会や環境LHRをとおして、環境改善活動をよりいっそう推進し、目標を達成できるよう生徒、職員の意識啓発を高める。			
3. キャリア教育の充実と生徒の進路実現	① 専門的な知識・技術の習得	①資格取得を目指し、受験の奨励や特別補習を行っているが、生徒の意欲差があり十分な成果が残せなかった。	○一人一資格以上の取得を目指す。 ○ものづくりの楽しさを実感させ、専門教科への興味・関心を喚起する。	○工業学科は全国工業高等学校長会主催の各種検定と、理数工学科は英検・漢検・数検に積極的に挑戦できるよう、指導体制を整備する。 ○高校生「ものづくりコンテスト」への参加を奨励し、技術力を高める。 ○課題研究をとおして生徒の探究心や表現力を育成する。 ○放課後補習や勉強会などへの積極的参加を募り、各種資格への合格や学力の向上を図る。			
	② 職業意識の育成と進路指導の徹底	①企業見学会、インターンシップ（工業学科で5日間実施）、進路LHR、進路説明会、諸検査等を実施し、成果があった。 ②進学補習を実施して学力の定着を図った。一方、工業学科の進学模試受験希望生徒が少なく、意欲の喚起には十分つなげられなかった。	○自己の進路実現のために必要な学力・資質を養成する。 ○望ましい職業観・勤労観・社会性を育てる。	○企業見学やインターンシップを実施し、職業観・勤労観を養う。 ○進路説明会や各種模試の実施、進路資料を充実させ、進路意識の高揚を図る。 ○進学補習への自主的な参加を図るとともに、進学模試の受験を促進し、進路決定できる力を養っていく。			
4. 地域や産業界とのパートナーシップの確立	① 地域や産業界との連携強化	①地域や企業との連携を深めながら、生徒の職業観・勤労観の育成に成果を上げている。	○地域や企業との連携を一層深める。 ○地域が求める人材のニーズを把握し、よりよい社会人を育成する。	○「鳥工版デュアルシステム」による専門的な技術の習得を図る。 ○鳥工産業教育懇話会等をとおして、企業と密接な情報交換を図る。			
	② 開かれた学校づくりの推進	①科別PTA・鳥工TEC・課題研究発表会等で教育内容を地域に発信している。 ②近隣の小学校への出前授業や日食観測会・実験教室などを行った。	○学校の最新情報を発信するよう努める。 ○地域住民・近隣小中学生等に対して、鳥工をPRしていく。 ○課題研究発表会や鳥工TECなどで広く教育内容を発信する。 ○学年別懇談会、学科別懇談会等の1年間のPTA行事の参加率が昨年度以上となるよう努める。	○学校HPの更新を行い、最新の情報を発信する。 ○各科で研究、製作したものを鳥工TEC等で展示し、地域住民等に紹介する。 ○課題研究発表会を学校外で実施し、広く県民に公開する。 ○近隣の小中学生を対象とした「ものづくり教室」や「科学遊び広場」を実施し、ものづくりの魅力を発信する。 ○学年別懇談会、学科別懇談会等を、保護者の参加しやすい休日を利用して実施する。			